

『石器時代と日本のサピエンス』

— 『知能ビッグバン』から人類の根源を探る —

— 3. 8万年前に列島に到達。日本人のルーツ —

記: V0.0 2018/5/6 横浜歴史研究会 宮下元

はじめに 1 …石器が急激進歩

今、世界中で、人類のルーツを求めて遺伝子分析が始まっている。日本も開始しているが、いかんせん、古代人の良質な骨の発掘が少ないのだ。日本でも、『ラスコー展』、神奈川『石器時代展』が開かれ、新説が出ている。また、NHKで『葦船冒険』(~2019)や『人類誕生』(2018/4/8~ 3回シリーズ)で放送している。実は、後期旧石器時代遺跡(石器)が相模野台地など日本に1万4千カ所もみついている。つまり、縄文時代以前にホモ・サピエンスが渡来していたのだ。日本の特徴は、ローム層で時代が判明し、石器が急激進歩していることがわかった。人類・日本人とはをもっと探りたいと思っている。

はじめに 2 …海も越えた冒険家

ラスコー展の再現像を見てわかるように、現在人と後期旧石器時代人は身体も知能も変わらない。装飾も付ける。違いは文化・知識・道具の進歩だ。進化はわずかで肌の色など位。ホモ・サピエンス(・サピエンス)とは賢い人の意味である。我々現生人類の学術用語だ。また単に『新人』とも呼ぶ。30or20万年前にアフリカで出現した。新人は6万年前~にアフリカから世界中に拡散した。欧州の新人がクロマニヨン人で白人系、アジアに進出した新人が新旧モンゴロイド。そして3. 8万年前日本列島に到着した。石垣島の白保竿根洞窟で、最古級の2. 7万年前の人骨19体が発掘された。現在、遺伝子分析を試行中。発表が待ち遠しかったが、前月末に東京博物館で展示している。人骨から復元した顔を見ると、南方系である。この縄文以前を『後期旧石器時代』と呼ぶ。6~4万年前に『知能ビッグバン』が起こったと考えられ、石器が急激に進歩・変化。海も越えた冒険家だ。『知能ビッグバン』を探れば、人類とはがわかるのでは。

石垣島石器人の復元顔:
沖縄沖縄県立埋蔵文化財センター作成

はじめに 3 <GENさんの仮説>…不安症・怠惰希求・貪欲の動物

人類とは、助け合い、かつ、殺し合う、社会的動物だ。神(=宗教=絶対)が無いと不安でもある。そして、抽象的認識・時間的観念・計画的行動・学習ができる。(動物は現在視野認識と本能で行動)。人類は様々な道具を進歩させることで文明を築いた。最先端の道具は常に『兵器』だ。しかし、進歩し過ぎたかも。未だ、心・自然・争いをコントロール出来ないのに！言い換えると、際限ない『不安症・怠惰希求・貪欲』を持った動物ともいえる。

はじめに 4 …GENさんの説

- Q1: 打製石器は磨製より低性能で古いか？
⇒ NO。同時に利用し使い分けている。打製の方が鋭く実用的。
- Q2: 石器時代人も現代に生きていけるか？
⇒ YES。能力に差がほとんど無い。教えれば順応できるという。
- Q3: 旧人(ネアンデルタール)と新人の相違？ どちらが強い？
⇒ サピエンスは体力は弱い、集団力で勝った。混交しコンマ数%の遺伝子が残るといふ。
- Q4: 日本人は石器時代人の子孫か？
⇒ YES。海面上昇で島国に閉じ込められたのが縄文人。遺伝子は12~20%

旧石器時代とは: 前・中・後期の3つで、後期がサピエンス

やっと本日の本題の石器の話に入ろう。旧石器時代の遺物は石器と骨で、他は腐って残らず。また、前・中・後期の3つに分けられる。

- ①. 前期旧石器時代: 原人。自然石利用。礫石器(れきせつき)と言う。最古は260万年前頃エチオピア: 砕いた石斧(刃)だ。(約250万~15万年前)
- ②. 中期旧石器時代: 原人・旧人。簡易打製。手斧。ネアンデルタール人(約8万年前から約3万5000年前まで)の時代だ。
- ③. 後期旧石器時代: 新人の時代。打製量産。磨製も。新説で更に5段階に分けられる。なお、その後の縄文時代は、土器文化だが、鍬石器(弓矢)が量産される。槍は激減。大型動物がいなくなり、小型動物を狩るのは弓矢だからである。新石器とは、磨製石器だが、時代分別はすべきでなく、金属器(青銅器・鉄器)の出現で、石器時代は終焉する。原始の石器をハンド・アックス(hand axe. 握斧: にぎりおの)と言い、人類をアックスメーカーと呼ぶ。言い換えると『道具製作者』と意味を込めている。

図1: 礫石器



握り斧石器

Y-History 教材工房
『世界史の窓』より



♥知能ビッグバンとは

ところが、遺跡遺物をみると6～4万年前以降、急激な変化が世界中でみられた。それは今も続いている！それまでの進化進歩は100万年単位だったのに。それは新人つまりホモ・サピエンスで、冒険家で拡散した。海洋・極地迄も進出。世界制覇を果たした。6万年前アフリカを出て、1万年前に南米最南端に達した。地球上に拡散した生物種は新人のみである。その特徴は、
①様々な道具を工夫して作る。②集団で狩。計画的。50名の統率をする。
③埋葬(副葬品)、装飾、芸術がある。④指揮棒石器・・・季節変化を記録している。 など
そして、様々な旧人と大型動物がいなくなった！気候変化もあったが狩り尽くしたのだ。

♥後期旧石器(槍)の5段階進歩

それでは、知能ビックバンつまり道具の進歩を槍先でみてみよう。
縄文前の列島の『後期旧石器』時代をローム層で5期に分けている(鈴木・矢島式分類)。
・Ⅰ期: 3.5～3.3万年前。台形様石刃(槍先)など。終盤に大型石斧(せきふ、木伐採用)。
・Ⅱ期: 3.3～2.9万年前。AT層以前。国府型ナイフ形石刃(槍先・剥器)など。地域差なし。
・Ⅲ期: 2.9～1.8万年前(最寒氷河期)。AT層以後。瀬戸内技法でナイフ形石刃量産。
・Ⅳ期: 1.8～1.6万年前。尖頭器型(せんとうき、槍先形、木の葉状)石器。
・Ⅴ期: 1.6～1.3万年前。シベリア系の『細石刃』(さいせきじん、複数嵌込み替刃型槍先)
(なお、4万年以前の石器は日本列島では未確認とされる。石器ねつ造事件で否定された負の影響のためだ。出雲の砂原遺跡、遠野市の金取遺跡が旧人遺跡かも??とされている。)



図2: 後期旧石器の変遷 ...<平成28年度かながわの遺跡展より>

♥Ⅰ期: 台形様石器(槍)

Ⅰ期の台形様石器は槍先と思われる。

♥Ⅱ期: 国府型ナイフ形石刃

Ⅱ期の国府型ナイフ形石刃(コガタ セキジン: 槍先・剥器)は、神奈川の国府で発見されたが、全国で出土される。片刃ナイフの打製石器で、大量生産。材料はサヌカイトなどサヌカイトとは讃岐で多い岩。奈良の二上山産が石器に使われている。

▲AT層とは: 自然の脅威 ▲

ローム地層の中で『AT層』が目印になっている。
南九州の始良大噴火の灰の層だ。A: 始良火山(鹿児島噴火湾)。
T: 秩父で発見された。2. 9万年前の火砕流で九州が全滅した。
全国に火山灰被害をもたらし、関東人も灰を吸って悶絶死?
地層の指針で遺物の年代が判明できる。
他にも、十和田湖や鬼界島の大噴火や火砕流で石器時代人は何度か死滅に出会っている。とのこと。



図3: 始良カルデラ

♥Ⅲ期: 瀬戸内技法

AT層以後のⅢ期になると、瀬戸内技法でナイフ形石刃を大量生産される。地域差も見られる。

発祥の関西はサヌカイトが多いが、各地に伝播し東海地方は安山岩で代用。
 同じ石からの石刃が分散しているので、交流・交易が盛んになっているのがわかる。
 製造工程は3工程に分かれかなり複雑だが、手順化・分担化されていると思われる。
 石核を割って盤状剥片を作り、更に刺身状に翼状剥片を量産し、ナイフ状に仕上げる。
 ①第一工程：石の右部を撃ち落とし、更に上部を打ち分割し、更に打ち割って刺身状を量産。
 ②第二工程：刺身状石の片側を打ち剥いで薄く鋭くして『翼状剥片』石核にする。縦長、横長の2種。
 ③第三工程：『翼状剥片』の刃側を加工して『ナイフ形』に仕上げる。

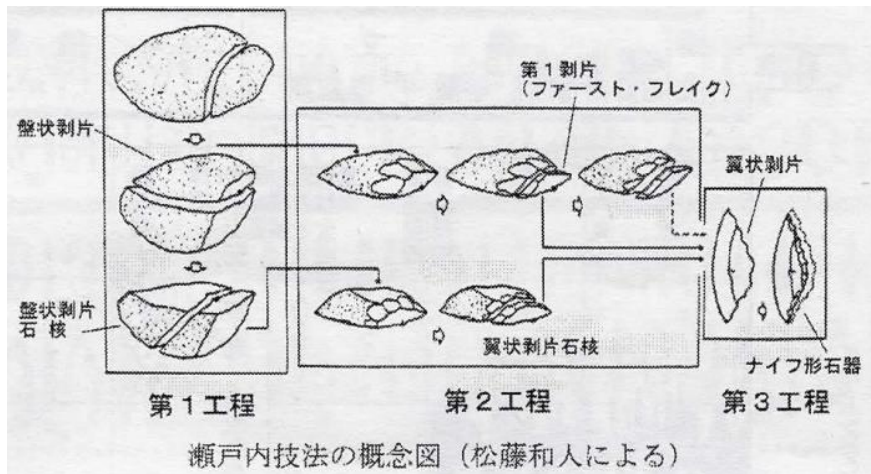


図4: 瀬戸内技法

♥IV期： 尖頭器(セントウキ)石器

IV期になると尖頭器(セントウキ)石器が現れる。木の葉型で美しい。
 ラスコ洞窟(フランス、クロマニヨン人)と日本のが類似している。
 特に美的に精密に仕上げられているのは、シンボル化・宝物扱いなのではと想像される。

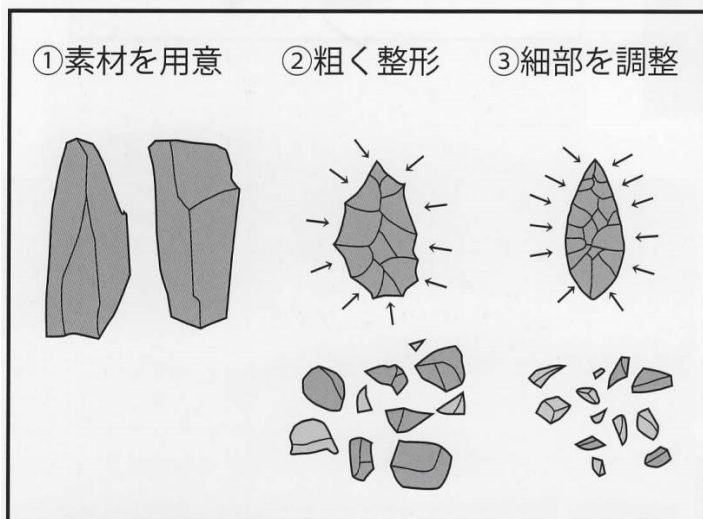


図5: 相模台地(左)とラスコー(右)の尖頭器

図6: 尖頭器の製造法…<平成28年度かながわの遺跡展より>

♥V期： 細石刃(サイセキジン)文化

V期を細石刃(サイセキジン)文化という。寒いシベリヤ系の文化。トナカイ・マンモスを追って樺太から渡来したのだろうか。槍先(骨など)の溝に小さな石刃を並べて埋め込むのだ。
 細石刃は長さ数cm、幅1cm内で大量生産し、替刃式穂先なので修理が楽なのだ。
 しかも軽量なので運搬が楽で、寒い地方を旅や狩で移動に向いている。従来石器は重たいので。



図7: 細石刃(さいせきじん)の槍先



図8: 細石刃の大量製造法<平成28年度かながわの遺跡展より>

♥石器時代の日本列島人とは



当時は氷河期で寒く、瀬戸内は沼地だった。オオツノシカやゾウ(ナウマン・マンモス)など大型動物が季節移動していて、サピエンスも狩で移動していた。

ゾウは最上級の食料で、一頭狩るだけで大量で旨い。

ナウマンゾウなど大型獣を狩るには統率・分担・共同作業が必要である。

ゾウを沼地に追い込み、ぬかるみに足を捉れたら、槍でじっくり弱らせる。

湖畔(野尻湖など)で、解体作業し運搬し皆で分ける。余ったら燻製・冷凍で保存。

そして、列島からゾウや大型獣が消えた！

新人は全地球に広がったが、日本列島独自の特徴(能力)が二つ見つかった。

同時期の新人のクロマニヨン人は海に出なかったが、列島人は海洋に進出した冒険家である。

♥列島人の能力1: 神津島の黒曜石

1つは、相模台人は何と伊豆七島の神津島産の黒曜石を利用していた。

神津島産は、最上級の石材。石刃作成用(縄文時代は北海道白滝産、ハケ岳産も)。

黒潮を渡り荒波が寄せる神津島脇の恩馳島(オンハセジマ)の海岸崖が良質の黒曜石で黒潮を乗り切り戻るために、季節や流れの速度を知って何度も計画的に行っていたのだ。

交易・沿岸運搬で関東各地から出土している。

♥列島人の能力2: 落し穴

2つ目は落し穴猟である。旧石器時代の罾・落し穴は世界的に珍しい。

第二東名高速道工事で、富士山麓で発見された。三浦半島横須賀でも見つかる。

(縄文時代は沢山みつかっている)

穴は列状に並べる。尖頭杭。山中から下に追込猟したり定期的に見回る。

大型獣が減り、中小型動物を狙った罾(猪・兎など)

静岡県富士石遺跡では、始良火山灰の下層から深さは1.5m程、直径1mの円形の穴。

列島南岸は温暖になり、住居が固定化したようだ、

当時の南岸地方は団栗や栗がある温帯樹林帯で半定住生活が始まったと推測される。

つまり、日本列島の状況に合わせた創意工夫を計画的に行える知恵・能力があったのだ。

◆引用・参考文献

□『かながわの最初の現代人』: 平成28年度かながわの遺跡展・巡回展 と資料。川崎市民ミュージアム

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6656/>

□『日本人はどこから来たのか?』: 海部陽介(国立科学博物館)。同上の特別講演第1回。H28年12/18

□『神奈川の歴史の始まり -考古学から見た日本列島における現代人の出現-』

: 佐藤宏之(東京大学教授)。H29年1/7。同上の特別講演第2回

□『西からやってきた氷河の獵人 -南関東における瀬戸内技法と国府型ナイフ形石器-』

: 絹川一徳(かながわ考古学財団)。H29・1・22かながわ県民センター。第6回考古学講座。

□『旧石器時代なのに現代人?』高屋敷飛鳥 2016/12/23

□『ラスコー展』特別展世界遺産: 上野)国立科学博物館 2016/11/1~2017/2/19 <http://lascaux2016.jp/>

□『3万年前の航海』徹底再現プロジェクト -祖先たちは偉大な航海者だった!?-

: 海部陽介・国立科学博物館。協賛: NHK <https://www.kahaku.go.jp/research/activities/special/koukai/>

□『アラビアの道』サウジアラビア王国の至宝展 東京国立博物館 2018/1/23~

□『雅楽のこころ、音楽の力』: 東儀秀樹氏。FUJITSUユニバーシティオープンセミナー第135回。2017/1/23

<http://ps.nikkei.co.jp/nissan2017/page01.html>

□『人類5万年 文明の興亡』上・下: イアン・モリス。筑摩書房。2010著、2014和訳。¥3600×2

□『400万年 人類の旅』: ジェームズ・パーク他。三田出版会。1998/9/10。¥2500

□『サピエンス全史』(上): ユヴァル・ノア・ハラリ。河出書房新社。2016/9/30。各¥1900

□『人類誕生』NHKスペシャル(2018/4~放送中)

□ウィキペディア

□Google MAP

以上

列島人の能力1: 神津島の黒曜石



<平成28年度かながわの遺跡展より>

列島人の能力: 列状落し穴

写真は(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所より



静岡県富士石遺跡では、始良火山灰の下層から、深さは1.5m程で、直径1mの円形の穴

<(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所より>